

# 研究実施のお知らせ

2026年4月3日 ver.2.0

## 研究課題名

胃 ESD 後の粘膜欠損に対して折り紙法を用いた粘膜縫合の実現性についての検討

## 研究の対象となる方

2025年5月から2026年2月の間に島根大学医学部附属病院で表在型胃腫瘍に対して内視鏡的食道粘膜下層剥離術(ESD: Endoscopic submucosal dissection)の治療を受け、剥離後の潰瘍に縫縮処置を実施された方。

## 研究の目的・意義

早期胃癌をはじめとする表在型胃腫瘍に対する ESD は、手技自体はほぼ確立されて安全に施行できる処置となっています。しかし、処置後には大きな胃潰瘍が残るため、出血や穿孔などの遅発性合併症は未だに問題となっています。当院では、十二指腸や大腸で有用性が報告されている、折り紙法という手技を用いて ESD 後の胃潰瘍の縫縮を行っています。

本研究では、折り紙法が胃 ESD にも適応可能であるかどうかをさかのぼって検討したいと考えています。

## 研究の方法

研究者は、下記の項目について電子カルテから情報収集します。

年齢、性別、腫瘍の部位、腫瘍の大きさ、切除標本の大きさ、ESD 開始から終了までの時間、折り紙法による縫縮の可否、縫縮に要した時間、縫縮に要したクリップの数、縫縮による合併症（穿孔・出血など）、ESD 翌日の縫縮離開の有無、ESD3 週後以降の縫縮離開の有無、ESD 後の遅発性合併症の有無、抗血栓薬仕様の有無

収集したデータは、島根大学医学部内科学第二医局の外部から容易にアクセスできないパソコンに保管します。パソコンにはセキュリティを設定し、パスワードで利用可能な研究者を制限します。研究対象者リストはデータとは別に、施錠可能な場所で研究責任者が適切に保管し、外部への持ち出しは行いません。

研究に関するデータ及び関連資料（研究に関する手続き資料を含む）は、研究結果の最終報告を行ってから10年間は保管し、その後保管の必要性がなくなった時点で研究対象者の識別が不可能な状態で廃棄（消去）します。

## 研究の期間

2025年8月25日～2028年8月

## 研究の公表

この研究から得られた結果は、医学関係の学会や医学雑誌などで公表します。その際にあなたのお名前など個人を識別できる情報を使用することはありません。

## 研究組織

この研究は次の機関が行います。

研究責任者：

島根大学医学部附属病院 消化器内科 高橋 佑典

## 情報の利用停止

ご自身の情報をこの研究に利用してほしくない場合には、ご本人または代理人の方からお申し出いただければ利用を停止することができます。

なお、利用停止のお申し出は、2026年8月31日までをお願いいたします。それ以降は解析・結果の公表を行うため、情報の一部を削除することができず、ご要望に沿えないことがあります。

## 相談・連絡先

この研究について、詳しいことをお知りになりたい方、ご自身の情報を研究に利用してほしくない方、その他ご質問のある方は次の担当者にご連絡ください。

研究責任者：

島根大学医学部附属病院光学医療診療部 高橋 佑典

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町 89-1

電話 0853-20-2190 FAX 0853-20-2187